

日時：令和元年8月30日（金）午後1時

会場：新関コミュニティセンター 大ホール

1 開会

（金子会長）

皆さん、こんにちは。お疲れさまです。

本日は5回目の自治協議会ですけれども、開会に先立って皆さまに一つご紹介したいことがあります。今日の午前中、私はあるNPOがやっている勉強会に出してきました。まちづくりに関する活動をやっている全国的に活躍しているNPO法人なのですけれども、そこで最近、仕事として非常に注目を浴びているのは、ある地区の中学生以上の全住民に、あなたが住んでいる地域のまちづくりについてどう思いますかというアンケートを取ると。それを徹底的に分析して、年代ごとの意識であるとか実態であるとかを、そこから次にやることは何か、地域の問題、市の問題は何かということを取り組んでいくということを協議して、開発をして、今、それが全国的に注目を集めているのです。

その中で、私は非常に気になった傾向があり、いろいろなところにアンケートに行っているのですが、その中の一つの傾向として非常に気になっていることは、中学生以上だから子どもたちからも取ったりするのですけれども、その地域の地域づくりについて興味はありますかという質問と、実際に地域に対する愛着を持っていますかという質問と、この二通りで聞くわけです。どういう結果が傾向として多いと思われませんか。時間もないので言ってしまうと、地域づくりに対する興味というのは持っている方がたくさんいるのです。関心はあるのです。それはそうですね、自分が住んでいる地域なのだから、どうなのかというのは非常に、自分に直接かかわりがあることというとらえ方は若者の中にあります。ところが、愛着はあるかという質問になると、それがぐっと下がってしまうのです。関心はあるけれども愛着を持っていない。そういう子どもたちが育っていったときに、実際にその地域に住み続けたいと思うか。あるいは、一度出たとしてもまた帰ってきたいと思うかということ、非常に絶望的ですよね。それと同時に、関心はあるけれども地域の活動には参加していないという人たちがたくさんいることはよく分かっていますが、その辺りはひよっとしたら何か地域づくりの非常に大きなテーマになっているのかなど。数字から見えてきた、少し気になる傾向がとても印象に残ったので、ご紹介させていただきました。

それでは、本日の会議を進めていきたいと思えます。うれしいことに、本日から新しい委

員がいらっしゃいます。7月1日付で選任いただきました、民生委員児童委員協議会から長谷川啓子委員、一言ごあいさつをお願いできますでしょうか。

(長谷川委員)

皆さま、はじめまして。こんにちは。渡辺律子さんから引き継ぎまして、民生委員児童委員協議会から選出されました、長谷川啓子と申します。どうぞよろしく申し上げます。

(会 長)

長谷川委員、ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、今日の取材の依頼なのですけれども、FMにいつ様からいただいております。写真撮影、録画、録音などを許可してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

では、許可することにしたいと思います。

2 議事

(1) 「市長とすまいるトーク in 秋葉区」の開催について

最初に、次第の(1)「市長とすまいるトーク in 秋葉区」の開催について、資料をご覧ください。地域総務課の伊藤課長補佐より説明をお願いします。

(地域総務課)

説明させていただきます。地域総務課の伊藤です。

皆さま、資料1「市長とすまいるトーク in 秋葉区」をご覧くださいと思います。こちらは市民の皆さまと市長が直接話し合い、皆さまの声を市政に反映させる市長とすまいるトーク in 秋葉区を10月8日火曜日の午後7時から、秋葉区役所で開催します。

内容は、子育て支援・健康寿命の延伸への取組み～少子・超高齢社会を踏まえて～をテーマに市長から説明を行います。その後、市民の皆さまと意見交換を行う予定ですので、ぜひ、お誘い合わせのうえご参加いただきたいと思います。

間もなく広報が出る予定になっておりまして、9月1日の市報にいがた、それから9月15日の秋葉区役所だよりもこの情報が掲載される予定となっております。なお、8月30日から9月上旬の間に秋葉区選出議員の皆さま、それから地域コミュニティ協議会の会長様にもご案内を送らせていただく予定となっておりますので、併せてご報告させていただきます。よろしく申し上げます。

(金子会長)

こちらは特に出欠に関して取りまとめるステップはないですね。自主的にということ、ご参加いただければということです。

では、何かご意見、ご質問等があればお願いします。

よろしいですか。ありがとうございました。

(2) 秋葉区特色ある区づくり予算の事業アイデアについて

次に、次第(2)が非常に大きなボリュームになっています。前回、新関コミュニティ協議会にお邪魔して、ワークショップ形式で、特色ある区づくり予算の事業アイデアについて皆さまからいつもと少し変わった形でご議論いただいたわけですが、それが功を奏したのか、今年は非常に多くのご提案を皆さまからご提示いただいたということです。まず、その辺の説明を地域総務課高橋課長補佐からお願いします。

(地域総務課)

地域総務課の高橋です。

資料2をご覧ください。前回の自治協議会で委員の皆さまからアイデアの募集をお願いしたところですが、多数いただきました。ありがとうございました。提案していただいたアイデアを資料に掲載させていただいております。本日、どのようなアイデアが提出されたのか皆さまと共有したいと思いますので、提案をいただいた委員の方に事業内容を説明していただきたいと思います。また、本日、机上に配付した事業名が書かれた用紙ですが、今後、事業化を検討する際の参考にさせていただきたいと思いますので、どんなことでも結構ですので、説明を聞いてご意見がありましたら記入していただければと思います。

まずは、区役所企画事業から説明をお願いしたいと思います。区役所企画事業については、6名の方から9件の事業提案をいただいております。大変ありがとうございました。順にお願いしたいと思います。

(金子会長)

私からお願いをさせていただいていまして、なんと、今回、全部で15件の提案が上がりました。素晴らしいですね。ただし、何しろ論客の多いこの会議ですので、時間を無制限にしまいますといつ終わるか分からないという懸念がありまして、心苦しいのですが、お一人3分以内くらいを目安にさせていただいて、あくまでも目安ですが、ご説明いただきたいと思ひまして、事務局にベルを用意していただいております。まず、2分たったら1回鳴ります。3分たちましたら2回鳴りますので、2回鳴りましたらそろそろまとめの時間かなということで意識してスピードアップしていただければと思います。

すみません、では、進行をお返しします。

(地域総務課)

それでは、最初に小林委員からお願いします。

(金子会長)

たびたび遮って申し訳ございません。もう一つの工夫として、それぞれご提案されたご本人から3分くらい説明していただくのですけれども、それに対して、一つ一つ本当は丁寧に意見交換できればいいのですが、その時間もありませんので、思ったことを書き留めて提出いただく手法を取らせていただきました。そのための様式がA3の2枚刷りのホッチキス止めのものであります。こちらに何か一言、こういうところがこのことに対するポイントだと思ふとか、補足的にこのようなこともということをご意見として書いて提出していただくと、それも踏まえて協議に生かしたいと考えておりますので、そういったものとしてお使いいただければと思います。

たびたび失礼しました。小林委員、お願いします。

(小林委員)

新津中央コミュニティ協議会の小林です。

私が提案したいのは、秋葉山麓清水再生プロジェクトです。これは数年前にも一度提出したことがあるのですが、最近、秋葉山の清水はほとんどのものが止まったり、出ていても以前と違ってこんこんと出るという状況ではなくなっています。

どうしてかということ調べてことがありまして、そのときに、まず、鑿泉会社の新津鑿泉で社長と話をしたのですが、秋葉山は上のほうから清水が流れてくるのではなくて、山麓を横に水脈があるようだという話をお聞きしました。そのあと、ある建設関係の方と話をしていたときに、道路を挟んだ脇のあるお宅の基礎工事をしたときに、非常に水が出てとめるのが大変だったという話をお聞きしたのです。

その話と山麓の横を流れる水脈を合わせると、その水をとめたところにまだ水脈が生きているのかどうか。少なくともその調査をしていただきたいのです。それほどお金がかかる話ではないと思うので、もし生きているとするならば、その次のことを考えていただければありがたいと思います。清水も水脈の中の一つだと思いますので、ぜひ、やっていただきたいと思って提案しました。よろしくお願いします。

(地域総務課)

続きまして、阿部委員、お願いします。

(阿部委員)

小林委員のように、私もこれは発言したことがあるのですが、新津駅西口から文化会館までの道を明るくて歩きやすいものにしてほしいということを発言したのですが、今回、いい機会だと思って書かせていただきました。道を知っている人はどなたも、あれはひどいよねとおっしゃるのです。車もがたがた揺れますし、歩くほうはもちろん危険と背中合わせとい

う状況なので、やさしい町、やさしい道づくりということを提案したいと思います。

ワークショップのときにかつてに文化の道とか言っていたのですけれども、文化会館に行くから文化の道でいいのかと考えたときに、学校があるから文教でいいのではないのかとつてにつけさせていただいて、文教ロードとさせていただきました。できれば、区役所の関係の方に実際に歩いていただいて、いろいろな問題を出していただきたいということが一つありますが、現状はここに書いてあるとおりです。ただ、3点目に「景観を考え」と書いてありますけれども、鉄道の町ですので、少し変わった列車が入りますと、県外からもカメラを持った方がたくさんいらっしゃいますよね。それにしても安心して撮れる場所がないような気がして、少し荒廃した感じも絵になるのかもしれませんが、その辺も加味していただけたらと思っていますところ。本当に少ない予算のところなので無理は言えませんが、今よりも一歩でもいい方向に行っていただきたいという願望です。

それから、障がい者にも優しい道と書かせていただきましたが、たまたま6月でしたか、自分の町内に目の見えない方が入っていらっしゃいまして、その方と一緒に道路を歩く機会がありました。そうしたらとんでもない、私は足が一步も前に出ませんでした。何もない怖いところで白杖を頼りに一緒に歩いてみたのです。それで、一番驚いたのは、信号に横断歩道がついていますが、当然見えませんし、それまでに曲がっているのです。それで、こんなだったのかと思って驚いて、すぐに町内会長にもお話ししました。幸い、つい先日、黄色い点字ブロックが四方につきましたのでありがたかったです。ありがとうございます。ただ、その通りは便利だとしても、目が見えないから信号が変わったのが分からないとおっしゃるのです。それはその場所のために何か設置するのは無理かもしれませんが、民生委員と話し合いまして、もし見かけたらこのようにアドバイスしてあげようという勉強をこの次にやることになっていますので、やさしい道作りができればよろしく願います。

(地域総務課)

続きまして、伊藤治好委員、よろしく願います。

(伊藤(治)委員)

スポーツ協会から選出されている伊藤です。

2ページに概要が書いてあるのですが、信濃バレー親水レクリエーション広場のバーベキュー広場にトイレを設置してほしいという話です。信濃バレー親水レクリエーション広場はけっこう広くて、降りて右側のほうはゴルフを練習するところがあるのですが、その管理棟にはトイレがあります。非常に環境がいいのですけれども、皆さんに利用していただいているのですけれども、左のほうに行きますと芝生になっていて、サッカーの練習とか、もうじきワールドカップがありますけれども、ラグビーの練習をする場所があります。さらにもつ

と左に行きますと、バーベキュー広場がありまして、コンロとかそういうものが設置されています。ところが、残念ながらそこにはトイレがないのです。トイレがないものですから、子どもたちを連れていったときに、過去、私などは子どもたちにトイレはそっちに行ってこいと川のほうを示しましたが、女性や小さい子どもたちは非常にトイレで困っているのです。だから、利用状況はどうですかと言ったら、やはり少し利用状況が悪いと聞いています。

トイレを管理棟にあるものと同等的なもの、水道が来ておりますので、そこを整理することもできると思いますし、または富士山に登ったとき、富士山にバイオトイレというものがありましたので、そういうものも参考になると思います。ゴルフ練習場のあるそちらのトイレと、ずっとまた端のほうのバーベキュー広場にトイレが一つあれば、あそこの利用率も非常に高まるのではないかと考えて提案しました。

(地域総務課)

続いて、④をお願いします。

(伊藤(治)委員)

3ページの能代川左岸側道の橋の名前の掲示工事という話を提案させていただきます。昔は能代分流と言っていましたけれども現在は能代川になっておりまして、その左岸はけっこう交通量があります。ただし、交通量はあるのですが、今、どこにいるのかが分からないのです。ずっと行って橋の横を行きますと、ここは何とか橋ですというのは表示されています。江戸内大橋から始まって柄目木大橋、下割橋、金盛橋、八幡橋、いろいろあるのですが、その下の側道のところには全く表示がありません。そうすると、今どこなのか、どこに行くのに曲がってきてと言っても説明のしようがないですよね。あそこを造ってずいぶんになるのですけれども、下のほうを走っていて、今、どこにいるのかが分かれば非常に案内に便利だし、目的地に行くにも便利ではないかと思うのです。それほど予算もかかることではないので、プレートを各橋のところ、道路の上のところに掲げてもらえばいいのではないかと考えて提案しました。

(地域総務課)

⑤の事業について、金子委員からお願いします。

(金子会長)

私は3ページの下の方のA k i h a チャレンジ！起業家育成事業を提案させていただきました。秋葉区は地域資源が非常に豊富な地域ですので、そういったものを生かして起業する、ビジネスを起こすことで地域を元気にするような人材をたくさん育てる、あるいは集めていくような事業ができればと考えています。起業するなら秋葉区でということ、秋葉区内もそうなんですけれども、外にも発信して行って、地域のマンパワー、魅力アップにできればいいかな

と、思って提案させていただきました。

対象としては、秋葉区内外の若手の起業希望者であるとか、あるいは定年退職後に起業を志す方も多いと聞いていますし、何か一つやっているのだけれども、副業として起業したいという方も、新しいライフスタイルとして増えているところをターゲットにしてやればどうかと思います。

この事業は三つの柱から成り立っているとうまく効果的に働くと思ってしまして、一つは講座です。起業のいろはからビジネスプランを作る、あるいはテストマーケティングなども一緒にやっていくというところをシリーズ化してやると効果的ではないかと思っています。講座が終わって、ではあとはぼいっと放り出されるのかということ、そこで何かやはりできないやという人もけっこういるものですから、伴走支援といいまして、メンターみたいなものを配置して、こういう悩みがあるのだけれども、これはどうすればいいのかと、相談に乗れるような体制を常に執っておくということが大事なところですね。あと、できれば、本当に少額でもいいのではないかと思うのですが、起業したいときの準備金を少し行政から助成するというものがあると、さらに人が集まりやすいのではないかというのが、ほかの起業講座を見ていて感じる場所ですので、そういったところをセットにして施策化できると非常にいい結果になるのではないかと、思って提案させていただきました。

(事務局)

⑥の事業について、伊藤直委員からお願いします。

(伊藤(直)委員)

公募の伊藤です。

私は三つ提案しましたが、何しろ初めてなので、文面も分からなくていきなり書いたのですが、これは先回のワークショップで私たちのグループで出てきたものを、3点にまとめ、それが提案の内容になっています。

⑥の事業は、誰にとってもやさしい町づくりということですが、最初に、街なかの道を安全で美しく歩いて楽しいものにするというのがテーマというか目的です。

具体的には、一つ、あまりにも具体的すぎるのですが、本町通りから新津郵便局の前を歩いて郵便局に行きますけれども、車もたくさん通りますけれども、歩いてそこに行くと、自動車が通る脇の道の細いところを、ガードレールで仕切られていますけれども、そのガードレールで仕切られたところに、家並みのほうは側溝があって側溝の上を歩いたり、それから銀行がありますけれども、大光銀行だったか加茂信金だったか、その銀行の脇のところは坂になっていて、雨が降ったり雪が降ったりすると横滑りしてしまうということです。とにかく山道を歩いているような状態なのです。外観上も非常にみっともないと思

っています。あそこは大勢の人が利用するわけで、街の顔と言ってもいいような通りなのです。そこを何とか整備して、危険でなく安全で安心な歩道にさせていただきたいと思います。できれば美観も考えて、街の顔にふさわしい歩道にさせていただければ、街の株も上がってくるのではないかと思います。とにかくメインの通りだと思いますので、こういうところを少し美しくして行って、新津はいいところだと、美観のいいところだと少しでも訪れる人に思ってもらいたいということです。

もう一つ、先ほど阿部副会長からも提案がありましたけれども、これはそのときの提案を書きました。内容的にも同じです。

(地域総務課)

⑦の事業について、お願いします。

(伊藤(直)委員)

⑦の事業ですけれども、これは先ほど言いましたけれども、ワークショップのときのテーマの一つです。目的は、遊歩道の整備と情報発信。新津川、能代川に立派な遊歩道があるのですけれども、市街地を貫いていて、非常に貴重な遊歩道になっています。草花が多く景観もよく、多数の区民に親しまれ利用されているところです。ランニングしたり通勤通学路として利用されたりしています。これらの遊歩道をより使いやすく、安全・安心でより多くの区民・市民が訪れ、親しまれるものにしたいと思っています。

具体的に事業にさせていただきたいことは、まず、適切な位置にトイレを、少なくとも2か所に設置させていただきたい。具体的には、滝谷本町の南の境に小さい公園があるのですけれども、そこに民家がすぐ接近しております。そうしますと、散歩している方がどうしても我慢できなくてその民家にトイレを貸してくださいと飛び込んでこられることがけっこうあるということです。私は新津東部コミュニティ協議会にいましたので、新津東部コミュニティ協議会としても見回りをしています。それが一つです。それから、本町3丁目です。東屋があるけれども、そこら辺にもあるといいかなと。下水道、上水道、電気、それらがすべて近くまで来ていないと、とりあえずその2か所くらいが造りやすいのではないかと思います。ぜひ、お願いしたいと思います。

それから、秋葉山遊歩道のような案内看板をその遊歩道に設置します。こちらに行けば秋葉山に行くのだ、こちらに行けば団地ですか、あちらのほうに。そういった案内文を作ってほしいと思います。

あとは、雑草とか垣が生い茂っているとか、自治会にお願いして。

あとは、能代川遊歩道ですけれども、小阿賀野川から村松まで続くサイクリング道路の整備、改修ということです。秋葉公園と新津川、能代川の遊歩道、山と川を結んだルートの開

発と紹介、案内板の設置。小学校等への紹介・宣伝です。人に楽しんでもらえる。以上です。

(地域総務課)

⑧をお願いします。

(伊藤(直)委員)

⑧の事業もワークショップで出たのですけれども、目的は、秋葉キャンプ場再整備と管理・利用です。秋葉公園内にキャンプ場が二つ、第1と第2があります。第1は秋葉区に近いところ、第2は少し歩いて奥の斜面にキャンプ台が二つありますし、管理小屋みたいなもの、水道施設もトイレもあります。キャンプをするには絶好の場所になっているのですけれども、現状、荒廃しています。

キャンプ台は全部で7基あるのですけれども、その内の2基は朽ち果てて穴だらけで非常に危険で、1基は立入禁止になっています。一番上のほうが立入禁止になっています。あとは注意すれば何とか使用できるかなという状態になっています。せっかくこういういい施設があるので、利用者が非常に少ないです。これを何とか整備して、草もぼうぼうと茂っていますので、もう少し整理して、大いに使えるようにしたいと思います。

なぜ荒れるかという、だれも管理する人がいないので、造ったはいいけれども造りっぱなしという状態だと思います。ほかの区を見ていると、北区の海浜公園とかいろいろなところはよく整理されていまして、管理者もついていまして、キャンプセットの貸し出しをやったり、あるところではバーベキューの肉まで販売したりしているということです。そこまでは行かなくとも、せめて定期的に管理体制を作りたいということで、提案したいと思います。

管理を行うためには管理事務所が必要になるので、秋葉の噴水公園の上に、あれが多分管理事務所になっていると思うのですが、あれも中を見ると悪いです。これをもっと整備して、いろいろ、講演会とか合宿とかできるようになるといいなと。

あとは、公園を管理するに当たって、公園管理と秋葉山の自然をガイドするネイチャー制度。管理人については新潟県に管理委託等をするのでしょうか。概算事業費としては、大体適当ですけれども。

ウッドデッキは、木製のものは10年すれば枯れ葉が積もったり雪が積もったりするので、木材を腐らせてしまうということで、10年くらいしかもたないのです。今は廃プラスチックのものができています。それを使ってウッドデッキを造れば30年くらいもつことが分かっていますので、それらのものにしていきたいと思っています。

(地域総務課)

⑨の事業について、島倉委員からお願いします。

(島倉委員)

公募委員の島倉です。

昨年も秋葉区の文化遺産案内板の設置を提案したのですが、いろいろなところに、新津駅とか古津駅とか荻川駅とかそれぞれ設置してほしいと提案しましたが、それぞれの地域や駅の周辺の状態にふさわしい案内板を設置してほしいということをつけ足していただきたいので、よろしくお願いします。

市内、区内はもちろん、外部から来られる方に秋葉区の文化遺産をアピールして、秋葉区の活性化につなげていこうということで、秋葉区にはすばらしい文化遺産がたくさんあると思います。私は石油や鉄道、花とか上っ面くらいしか知りませんが、熟知している方を集めて検討委員会を立ち上げて、案内板をどのようにしていくかということをお話し合っ、整備したらどうかということです。令和2年に石油の世界館のリニューアルオープンも予定されているので、その辺もいろいろ考慮しながら新しいものができればいいのではないかと考えています。

私も新津駅と荻川駅、古津駅、東新津駅について、どのような案内板があるか見てきました。新津駅東口にはウォーキングマップと周辺案内図、西口には自転車道テントワというのがありました。秋葉区の文化遺産が一目で分かるものはなかったもので、ぜひ、ほしいということです。荻川駅東口には看板は何もありません。西口には周辺案内図がありました。近隣の区も含めた文化遺産の案内図があったらいいと思います。古津駅東口には周辺案内図が設置されていて、文化遺産が写真や絵で表示されていて、子どもにもとても分かりやすいものでした。東新津駅は秋葉公園案内図の看板が設置されていました。秋葉園とか野外音楽堂などが書いてありましたけれども、秋葉園は閉じているし、野外音楽堂はずっと Akiha 森のようちえんに使用されているので、その辺は少し現状に合わないのではないかと思います。

石油や鉄道はよく知られているのですけれども、八幡山は1万年以上前の遺跡が見つかっています。新潟市最古の人類の痕跡があるということで、新潟市の原点であるということがとても大切な文化遺産だということで、もう少しアピールしていただけたらいいなと思います。

(地域総務課)

アイデアありがとうございました。区役所企画事業なのですが、今後のスケジュールですが、提案していただいた委員の皆さまと区役所の担当課で意見交換を行わせていただきたいと思います。そこでまた来年度の事業化の是非を検討させていただきたいと思います。後日、委員の皆さまに担当課から連絡させていただきますので、よろしくお願いします。また、検討の結果については10月の自治協議会で区の方針として皆さまにお示ししまして、

改めてご意見を伺いたいと思いますので、よろしくをお願いします。

続きまして、自治協議会提案事業の説明をお願いします。提案事業については、5名の委員の皆さまから6件の提案をいただきました。同様に、提案いただいた委員の皆さまから事業概要を説明していただきたいと思います。

最初に、①の事業について、阿部委員からお願いします。

(阿部委員)

荻川コミュニティ振興協議会の阿部です。

タイトルが、秘湯・「新津温泉」の情報発信です。ちなみに、新津温泉をご存じの方はどれくらいいらっしゃいますか。さすがですね。ありがとうございます。行ったことがある方は。さすがですね。お前行ってこいと言われてそうな気がするのですが、どうも石油の匂いがするらしいということで、それがいいらしいのですけれども、少し怖いなど思いながら。

たまたま、7月にテレビのまるどりっ！ という番組でここが映されていて、場所的にもそんなに駅から遠くないし知っているところだったので、これはものすごく貴重な財産かもしれない。新津は鉄道のまち、石油の里と言いながら、石油に関連があるのであれば、秘湯だから言わないほうがいいのかもしれないというのは多少あるのですが、一応、情報発信くらいはしてもいいのではないかと思うので、今回、提案した次第です。

主婦 10 人くらいで新津温泉を話題にしましたら、たくさんいろいろな意見が出ました。まず、何に効くのと聞いたら、あせもにいいというのです。皮膚にいいし、ペットボトルを持って行って化粧水にしている人もいたりとか、石油くさくなるからタオルを持っていったほうがいいとかシャンプーを持っていったほうがいいとか、人が履いたのが気に入らなかったらスリッパを持っていったほうがいいとか、話題が騒然としまして、関心はとてもあることを感じましたので、何かのうちに。

自治協議会としては、温泉を宣伝するというよりも、こんなところがあるよと情報を発信できたらいいなと思って、例えば、あきはくはつものがたりにその辺を載せていただけたらいいのではないかと。

それから、先ほど島倉委員がおっしゃった、石油の世界館が来年リニューアルだとしたら、そのパンフレットに石油関連でこんなところもありますよと発信して、一口メモみたいなものを載せていただけたらいいのではないかと思います。よろしくをお願いします。

(地域総務課)

②の事業について、伊藤治好委員からお願いします。

(伊藤(治)委員)

8ページに出ていますけれども、JR新津駅前広場とケヤキ通りに七夕飾りとクリスマス

イルミネーションを設置したらどうでしょうかという提案です。

これは随分前からあったのですが、新潟駅南はケヤキ通りで非常にきれいで、随分前に新津にも作りましょうという提案をしたのですが、いろいろな事情でなかなか実現しなかったのです。長い間実現しなかったです。最近、駅の広場にイルミネーションを少し飾ったりしているのですが、もっと大々的に、新津駅を降りたところからずっとケヤキ通りがせっかくあるので、そこをイルミネーションで飾ったら、冬などはとてもきれいなのではないかと思います。

それと、七夕飾りなのですけれども、私はもともと新津の人間ですので、昔、新津の町は駅のところもずっと、商店街にたくさん七夕飾りがありまして、頭がぶつかるくらいたくさんあったのです。街がだんだん寂れてきたというか、それとともに七夕飾りもなくなってしまっ、見る影もなくなってしまったので、昔に戻せということではありませんけれども、現在は現在として、また七夕飾りを復活させると。新津駅で降りたらいろいろあるというようにしていったら、少しいいのではないかと。インスタ映えするとか、そこでいろいろな賞を出して活性化させたらどうでしょうかという意見です。

(地域総務課)

③の事業について、荒井委員からお願いします。

(荒井委員)

荒井です。

3番目ですけれども、何か仰々しい事業名になっていますが、実は、秋葉区内には非常にたくさんの文化団体、あるいは芸能関係のサークルがたくさんありまして、それぞれの方々が時期を変えて発表会なり演奏会なりをやっておられるわけです。ここに書いてありますウィークとつけたのは、それらの催し物の時期を一つにして、例えば、3日間とか2日間とか、そういう形でウィークっぽい行事にしたらどうかという意味です。内容としては、音楽と芸能の祭という形で考えてみたわけです。

今までは、大体春先には芸能関係のお祭りというか発表会が多く文化会館で行われております。秋口には音楽関係の演奏会が開かれているわけです。あと、冬季になるとジャズ関係のお祭りみたいなものもやられております。単発でそういう行事を行っても、なかなか大勢の方々に興味を持っていただけないという感じもあります。全く新しいものを考えるというよりも、単発で行っているものを集中して、皆さんと一緒にしてお祭り騒ぎをやったらどうかという意味で出させていただきました。

それからもう一つは、開催時期を、やはり小中学校の児童生徒にもなるべく参加していただくという意味から、5月から6月あるいは8月から9月といった、比較的参加できるよう

な時期を選んで考えてみたらどうかと考えています。実際は、それぞれの団体の皆さんが自主的に開催の運営をやっているわけですが、私は文化振興協会の所属で、秋葉区音楽協会の所属でもあります。それぞれのノウハウを皆さんがお持ちになっておりますので、そういうものを集めて、合理的に集中的にやったらもっと効果が高くなっていくのではないかとことです。

それと、今まではどうもお仲間で楽しむということが多かったような感じもするのです。それもありますけれども、構成員であるそれぞれの方々が新津の文化を作り上げていく一員であるということを感じていくような形で運営に当たっていただけるのではないかと感じますので、こういう内容で提案した次第です。

(地域総務課)

④の事業について、金子委員からお願いします。

(金子会長)

自治協議会提案事業ということで、区民幸福度調査事業を提案します。

冒頭のあいさつの中で、今、全住民アンケートという手法が非常に注目を集めているという話をしましたけれども、実は、それ自体はとてもいい試みではあるのですが、どちらかというと、アンケート調査は往々にして問題点を浮き彫りにするようなどころに行ってしまうのです。そうではなくて、聞くことはあまり変わらないかもしれないのですが、秋葉区に暮らす幸せって何だろうというポジティブな確度から調査することによって、何か明るい未来につながるような結果の生かし方ができるのではないかと、幸福度調査ということをやったらどうかという提案です。それと同時に、やはり次に手を打つべき課題というものがある調査を通じて明らかになるといった効果ももちろん注目するところです。

対象としては、できれば中学生以上の全住民、かなりの人数になりますけれども、作ってしまえばあとは配って回収して打ち込むだけです。可能ではないかと思えます。

プロセスが非常に重要だと思っていて、幸福度調査を行うということで、官民連携させるようなプロジェクトチームを作って、その中で徹底的に秋葉区に暮らす幸せというのはどういうものなのかという問いかけをしたら、それがはっきりつかめるのではないかと議論から、プロセスを共有しながらやっていくということです。

調査結果の分析もプロジェクトチームで行いまして、幸せを感じられるようなまちづくりに向けて、課題を明らかにしますし、いいところも伸ばしていくといった効果をねらうことができるのではないかと考えています。

普通、幸福度調査というと、大体国レベルでしかやらないのですが、幸福度ランキングみたいなものが毎年発表されますけれども、それは地域の中でやっても意味があるものと思

いますし、よりそこに住んでいる人に近い情報をそこから得ることができますので、恐らく、1回やると10年くらいは非常に重要な秋葉区の財産になるのではないかと思います。一種のまちづくりのインフラとして、我々が自治協議会として何に取り組んでいくかということ判断するうえでの貴重な資料になると考えております。

成功する事例もあります。福島県会津美里町であるとか、愛知県長久手市とか、そのように取り組んでいる事例がありますので、そういったところも参考にしながら、あまりお金をかけずにやることのできる事業でもありますので、自治協議会として。自治協議会がやるということの意味は、住民によって組織されている組織が自分で住民の意識をきちんと調べて、それを資料として行政に提示するというプロセスは非常に大事だと思っていますので、提案させていただきます。

(地域総務課)

⑤の事業について、渡辺委員と宮腰委員からいただきました。宮腰委員からお願いします。

(宮腰委員)

支え合いのしくみづくり推進員の宮腰です。よろしくお願いします。

⑤学生の居場所・学びづくりということで、前回のワークショップでお話しさせていただいたのですが、学生が自宅以外で学習する場所がかなり少ないのではないかと前々から思っておりました。そこで、小学生から大学生まで、年齢などで分けることなく学べる居場所があったらいいのではないかと考えています。

そこで、本町通の商店街でシャッターが閉じている店舗がかなり多くあります。そこを活用して子どもたちに提供して、そこで学ぶ場を作ってあげるということを提案させていただきました。そこでのねらいは、小学生から大学生という縦のラインができるということ。そこで学んだ子どもたちは、やはり学力だけではなく、心も豊かなふっくらした子どもに育つのではないかと考えております。できれば、そこに集まった上の子どもが下の子どもに対して勉強を見てあげるといような自然の流れができればいいなと思っています。また、その子どもたちを囲むように、その商店街の人たちだったり近くの高齢者の方々がその子どもたちを優しく見守っていただけたら、その町全体が豊かな街になっていくのではないかと考えております。

先ほど、金子会長からも話がありましたように、地域づくりについては興味があるけれども愛着が少ないというアンケート調査も出ておりました。そういったところで育った子どもは、自分が大人になったときに、ここで子どもを育てたいと思って戻ってきてくれるのではないかと考えております。

(地域総務課)

⑥の事業について、渡邊委員からお願いします。

(渡邊委員)

渡邊です。

今日の朝、NHKで社会保障費増ということで、国もお金がない、県も県知事給料減額ということで、県もお金がないということです。これから予算が、この事業も含めてですが、国も地方自治体も頼れない状態が来ることは分かっています。そうすると、どうしたらいいかという、それぞれの住民が自分で稼ぐことを支えていかなければ、自分たちの地域は守っていけない、維持さえできなくなっていくということが取れます。これまで行政にお願いして予算をもらっていたということ自体をそれぞれの地域の人たちが自分で売ったり稼いだりしていけるようにサポートをする拠点が必要ではないかと思っています。

新潟市に市民活動支援センターがありますが、新潟市全域なので広すぎますので、区民活動ということで、先進的に区を対象とした住民へのアプローチ、やりたいことがある人たちをつなぎながら、資金調達やローカルデザインをサポートしていく拠点が必要ではないかと思います。例えば、先ほど、お湯の件が出ましたが、人も湯もアブラギッシュな感じという売り込み方で、新津温泉を苦手な人との関係を円滑にする化粧水というように売り出したらどうかとか、外に向けて、区だけではなく、市外、県外、あるいは国外、韓国などにも売り出せるような磨き方があると思いますので、その辺に対してアプローチしていけるような全体的な支援ができる場所ができたかどうかと思っています。

(地域総務課)

自治協議会提案事業の今後のスケジュールですが、具体的な日程はこの会議終了後に調整させていただきたいと思いますが、まずは、自治協議会提案事業検討委員会を開催しまして、事業化の是非であるとか、また、各部会での振り分けをするかなどについて話し合っただきたいと思います。先月の本会では、検討委員会から本会議へ報告していただくのを12月と申し上げましたが、区役所企画事業との予算調整のため、11月の会議で検討委員会からこの場へ報告していただくようお願いしたいと思っています。

なお、この自治協議会提案事業ですが、これまで、メンバーは各部会の部会長と副部会長で構成されておりました。今回出された事業アイデアは非常に横断的に実施する事業が多くありますので、検討委員会のメンバー構成についても、これまで通り部会の代表者のみとするか、それともまたそれ以外にも入ってもらったほうがいいのか、その辺について、皆さまのご意見を伺わせていただければと思います。よろしくをお願いします。

(金子会長)

それでは、ご意見を伺いたいと思います。今、高橋課長補佐からも1点、検討委員会の構

成について諮ることがあるのですけれども、その前に、皆さん、A3の意見記入用紙をご活用いただいたと思いますが、今、皆さんがそろっているこの場でどうしても共有したい意見、この場で話さなければあまり意味がない意見をお持ちの方がいらっしゃいましたら、そういう方に限ってご発言いただいてもいいかなと思っております。何かそういったご意見はありますか。

(渡邊委員)

今、お話を上げていただいた検討委員会の構成についてですが、お話を伺いますと、複合的な内容の方々がたくさんいらっしゃいますので、会長、副会長にも入っていただいたほうがいいのではないかと思います。

(金子会長)

渡邊委員から、部会長、副部会長に加えて私と阿部副会長にも、分野横断的というか部会横断的になるだろうと予想される事業がたくさんあるところから、各部会の調整役という趣旨かと思いますが、そういうことをご提案いただきました。その点について、皆さんからはいかがでしょうか。

特にないようであれば、ただいまの渡邊委員の意見について賛否をお伺いしたいと思えます。自治協議会提案事業検討委員会の構成として、従来の各部会長、副部会長に加え、私、会長と阿部副会長を今回加えるという点について、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。そのようにしていただきたいと思えます。

ほかに何かご意見等はありますか。

では、皆さん、用紙にしっかり書き込んでいただいていると思えますので、またあとで提出していただいて、今後の検討に反映させてもらいたいと思えます。これで次第(2)秋葉区特色ある区づくり予算の事業アイデアについてを終わります。

(3) その他

ア 部会活動報告

(金子会長)

次第(3)その他についてです。最初に、各部会の活動報告からお願いします。第1部会、第2部会、第3部会、広報部会の順番でお願いします。質疑はすべての部会の報告が終わってからとさせていただきますので、そのようにお願いします。

第1部会の小林部会長からお願いします。

(小林委員)

第1部会の小林です。

課題解決きらめきサポートプロジェクトですけれども、四つの事業を採択しました。

まず一つ目、にいがた農えん隊です。土づくりワークショップの定期開催による生ゴミ減量&食育アクションということです。これは第1回目のワークショップが開催されましたので、本多委員にあとで発表していただきたいと思います。

二つ目、小須戸コミュニティ協議会、在郷町小須戸～地域の宝探しと「秋葉ひなめぐり」という事業名になっていますが、今年は小須戸地区だけではなく、新津の商店街も一緒になってやることが決まりました。新津地区はひなが中心になるのか分かりませんが、ぜひ、新津でもいろいろなものを飾って、新津地区に来た人を小須戸地区へ、小須戸地区へ行った人を新津地区にも回っていただくということで、小須戸地区も盛り上がっていますが、新津地区の商店街もかなり興奮しているような状況です。

三つ目、新津東部コミュニティ協議会の新津川ふるさと還りプロジェクトということで、新津川に鮭が戻ってくるようになって、もう相当になるのですが、これを鮭のお帰りプロジェクトということで、図書館の裏にランタンを灯しまして、今回は一晩なのですが、プロジェクトをやろうと。これについては、フランス在住の原田哲男さん本人が、来月の11日から半月くらい来日するというので、制作に加わっていただき、竹を使った大きなオブジェを作り、これを公開します。これから秋葉区及びその周辺の学校も多分行くのではないかと思うのですが、美術部関係の人たちに、ぜひ、著名な彫刻家の原田さんの制作を見ていただいたり、お手伝いしていただいたりする人たちを募集したいのだということで、これも非常に面白い取組みになると思います。

ただ、今回、初めてなものですから、慣れていなくて1日しかやらないということが一番気になる場所ですが、非常に期待できると思います。10月13日に実施します。

それから四つ目、小口遊林倶楽部は、秋葉山分岐点案内図を造られるということで、今まで、新津中央コミュニティ協議会が中央地区で秋葉区と行ってきたような分岐点案内地図などを造っていくと。特に、小口の場合は入り口に案内というか、小口の山は全体が全く分からないものですから、まずは入り口に大きな地図を作ろうということで、今、始まったばかりです。

では、本多委員から、にいがた農えん隊と本日のワークショップについて、お願いします。

(本多委員)

第1部会の本多です。よろしくをお願いします。

今日の午前中ににいがた農えん隊のワークショップが開催されました。14名参加されて、子育て中のお母さん方と、一人、男性の方が来られていました。生ごみの削減にもつながる、

野菜くずを使った土作りをして、その土で家庭でも野菜を作ってくださいる方を育てていこうということで、今回、採択となりました。にいがた農えん隊はこういった事業を幼稚園や保育園に出向いて行っています。参加された方は、このようにして作れるのだと、また安全で安心な野菜が作れるのだということで喜んでおられました。これから2回、3回と続けたいということでした。

(金子会長)

続きまして、第2部会の佐藤部会長からお願いします。

(佐藤委員)

先月はほとんど進展がないのですけれども、先月お知らせした、11月28日開催の認知症予防関係のイベントについて、今日から具体的に広報活動や参加者の集約について、また、部員の役割分担とか、具体的な話を進めさせていただきたいと思っています。

それから、4月にお願いした、福祉施設と地域とのつながりのサポート、それから生活交通関係については、部会を二つに分けて二つの部会に編成し直して、その方々からそれぞれの担当というか仕事を続けていこうと考えています。来月から具体的な話し合いに入るのではないかと考えています。まず、11月のイベントに向けて集中的に活動していきたいと考えています。

(金子会長)

第3部会の島倉部会長からお願いします。

(島倉委員)

9月28日、10月19日、11月9日の3回を前期の子ども大学として予定しています。そして参加者募集を、7月18日の秋葉区小学校長会で、対象となる3、4年生にチラシの配布をお願いしました。締め切りが8月20日の夏休み中ということもあり、2名の申込みしかなかったのです。今までこんなことはなかったのですけれども、本会議が終わったら部会でどうするかを検討して、せっかく計画したものだから、何とかうまい方法で集めてみたいと思いますが、自治協議会の皆さまのお孫さんなり子どもさんなり、もし近所に知っている方がいらっしゃったら、ぜひ、お声がけをお願いしたいと思います。

(小林委員)

本当に少なくても私も驚いたのだけれども、学校にチラシをまいただけでは簡単に集まらないような気がするのです。きちんとしたというか、先生が子どもたちあるいは父兄にしっかり話をするとかPTAの集まる日があるので、ああいうところに行って少し皆さんに説明するだけで相当違うのではないかと思います。

(金子会長)

最後に、広報部会の田中部会長からお願いします。

(田中委員)

広報部会の田中です。

かわら版のほうですけれども、第 22 号を全戸に 8 月 15 日に配布することができました。御協力のほど、ありがとうございました。

それから、次回ですけれども、第 23 号になります。12 月 15 日に発行する予定にしています。このために広報部員が 10 月 7 日に集まりまして、今、第 3 部会からもお話がありましたけれども、各部会でもいろいろ提案や活動がいよいよ始まってくると思いますので、その辺の活動内容、それから本会議の対応など、その辺のところをかわら版などに上げていきたいと思っています。また、広報部会の皆さま、よろしくお願ひしたいと思っています。

それで、30 分番組のほうですけれども、あきはくはつものがたりについても、各部会に年間で放送のスケジュールということで決めていただきまして、今日、お手元にも秋葉区自治協議会の P R 30 分番組放送スケジュールということでお渡ししてあると思いますが、よろしくお願ひしたいと思っています。

次回は 9 月 11 日に第 1 部会の本多委員、それから第 3 部会の渡邊委員ということで、お願ひしたいと思っています。私も 8 月の回に出ましたけれども、なかなかこのようにうまくいかないです。ということで、報告は以上です。

(金子会長)

すべての部会からの報告をいただきました。ただいまの報告について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

イ 山の手地区住民バス社会実験について

山の手地区住民バス社会実験について、山の手コミュニティ協議会の駒口委員からご報告をお願いします。

(駒口委員)

山の手コミュニティ協議会の駒口です。よろしくお願ひします。

山の手地区住民バス社会実験について、住民バス運行状況を報告させていただきたいと思っています。4 月は 20 日間の運行で 1 日平均 7.6 人でした。5 月は 19 日間で 7.1 人、6 月は 20 日間で 7.7 人。7 月は 22 日間で 9.3 人、8 月は 11 日間で 7.9 人でした。運行委員の話し合いで、8 月からは運行ルートの特長で小須戸の町のほうまで伸ばしたのですが、乗車実績を得ることはできませんでした。来年度の運行経費の予算をもらうには、1 日平均 20 人以上の利用が必要ですが、なかなか今のところでは 20 人以上は少し難しいようです。そこ

で、山の手コミュニティ協議会の役員会や幹事会で、一人でも多く乗りましょうと話しましたし、敬老会参加者にもお祝いとしてバス乗車券をプレゼントすることにしました。

山の手コミュニティ協議会の横山会長より皆さまに伝言を頼まれてきましたので、聞いてください。

山の手地区の住民で、免許証を返納したいが、下越病院や医療センター、図書館等にも行けなくなるので、免許証を返納できないという声が聞かれるので、安心して返納できるような状況にしてほしいとのことです。

(金子会長)

ただいまの件について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(小林委員)

初めはとてもいいなと思っていたのですけれども、非常に苦しい状況が続いているようです。バスに固執しないで、これからは乗合タクシーという方向を探ってみたらどうなのかなと。私はこの前も話したのですけれども、胎内市に行きましたら非常にうまくやっているようで、タクシーだと乗合でも、回流の仕方も、重たい物を、家のすぐ前ではないようすけれども、家の近くまで来られるということで、少し時間がかかってもかなり利用があるようなのです。例えば、うちの町内でもいろいろな年寄りの方々の話を聞くと、やはり買い物が一番頻繁なので、買い物をするのに免許証の返納が大変だということなので、乗合タクシーをうまく。どれだけのお金を使ったら、バスの歩合というのか分かりませんが、乗合タクシーに舵を切っていったら、もしそれができると、相当に利用が増えるのではないかと思うのです。もし、タクシーを使えるのだったら、私も返納はまだしませんが、後期高齢者くらいになったらしてもいいかなと思います。その辺はバスにこだわらずに、みんながどうしたら一番使いたくなるのかということ念頭に置いて検討されたらいいのではないかと。これは山の手コミュニティ協議会ばかりではないのです。ほかのコミュニティ協議会もみんなそうなので、ぜひ、一緒に知恵を絞れたらいいなと思います。

(金子会長)

小林委員が発言されたデマンドタクシーというのも一つの代替輸送手段として、特にへき地を中心に全国的に導入が進んでいるものと思います。

余計なことを申しますが、交通手段の問題は、やはりお年寄りが一番困っているだろうと私は想像するのですけれども、実際にアンケートを取ったりすると、一番困っているのは40代、50代なのです。なぜかというと、お年寄りを送迎するために、その人たちの時間が使われているのです。それがなくなることによって、働き盛りの世代がその分の時間を生産的な活動に向けることができるということも、実は、調査すると明らかになってくるという

ところもあるようです。

すみません、かつてにしゃべりました。ほかに何かご意見等はありませんか。なければ、次に行きたいと思います。

ウ 新津川除草・クリーン作戦の実施について

続いて、新津川除草・クリーン作戦の実施について、建設課の落合課長よりご説明をお願いします。

(建設課)

建設課の落合です。よろしくをお願いします。

新津川除草・クリーン作戦の実施についてのご案内です。今年度の建設課の提案事業であります、遊歩道をきれいにしてみたいという事業の中で、新津川除草・クリーン作戦を市民協働で行います。こちら皆さんにお配りしている資料ですが、毎年参加していただいております団体向けの参加者募集です。

この資料で内容を説明させていただきますが、日時が9月29日(日)午前9時から11時まで、小雨決行です。場所は滝谷本町にある新津川の上流に木橋がありますが、そこから下流側、新町大橋の下流にある善道町付近にも木橋がありますが、そこまでの間約2キロの新津川の両岸周辺で行います。

作業内容は、あらかじめ除草してあります草の収集作業、それからごみ拾いなどになります。機械除草できなかった部分については、鎌で草を刈る作業もあります。

この新津川のクリーン作戦ですけれども、市民協働での環境整備の取組みとして、今年で12回目になると思いますが、毎年300名以上の方から参加していただいております。春には水仙の会がこれまで植栽してきた10万球の水仙をはじめ、ヨウコウザクラ、ソメイヨシノ、シダレザクラなど、桜の季節には見事な景色になります。また、先ほど小林委員からお話がありました、新津第二小学校の児童が鮭の放流をしておりますが、近年、11月くらいでしょうか、戻ってくる姿を見ることができるようになってきております。

この新津川ですけれども、まちなかの貴重な水辺空間として、皆さまから毎年きれいにさせていただいております。本当に感謝しております。今後も継続して市民協働での活動により環境整備を行っていきたいと考えていますので、どうぞよろしくをお願いします。

9月1日の区だよりで参加募集もありますけれども、当日の飛び入りも大歓迎ですので、ぜひ、参加していただければと思います。よろしくをお願いします。

(金子会長)

先ほどの区づくり予算提案事業の中にも新津川がありました。皆さんの積極的な参加、あ

るいは告知へのご協力をお願いしたいと思います。

今の件について、ご意見、ご質問等はありませんか。よろしいでしょうか。

エ SNSフォトコンテストの実施について

SNSフォトコンテストの実施について、地域総務課の伊藤課長補佐からご説明をお願いします。

(地域総務課)

アキハスムの関係で、秋葉区#アキハスムSNSフォトコンテスト、併せてもう1点、移住体験ツアーの2点について、皆さまにご協力のお願いです。多くの方から秋葉区の魅力を発信していただくことを目的に、アキハスムプロジェクトの一環としてSNSフォトコンテストを実施しております。

SNSというとなじみのない方もいらっしゃるかと思いますが、インスタグラム、フェイスブック、ツイッターのいずれかのアカウントをお持ちであれば、どなたでも参加できるフォトコンテストです。来年の2月2日までに、ご自分で撮影した写真をSNS上に投稿してください。自治協議会の代表として金子会長、Akiha 女子、新潟薬科大学の学生たちからアキハスムプロジェクトでPRしている六つの魅力、里山、鉄道、歴史、花、川、食についてそれぞれ1作品、優秀な作品を選んでいただき、入賞者にはAkiha 女子が選ぶ5,000円相当の賞品をプレゼントするほか、入賞作品をJR新津駅の東西自由通路に大型バナーとして掲出します。

より多くの方々からご応募いただくため、本日、ポスターを配付させていただきました。ぜひ、この広報にご協力いただきたく、また、皆さんからも、ぜひ、ご応募いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。コミュニティ協議会選出委員の皆さまには、このフォトコンテストのポスター以外にアキハスムプロジェクトのポスターも配付させていただきました。ぜひ、コミュニティセンターや地域の掲示板などに掲出していただきまして、秋葉区の取組みについても、ぜひ、広報のご協力をお願いしたいと思います。

続いて、秋葉区移住体験ツアーのチラシについてご説明します。今年度はプランを三つご用意し、現在、ツアーの参加者を募集しております。昨年度のツアーが好評で、参加者の1組が今年、秋葉区に移住してくださることになっております。秋葉区の魅力が分かるツアーの内容になっておりますので、県外にお住まいの方で秋葉区での暮らしにご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ、このツアーについてお知らせいただければと思います。委員の皆さまのお知り合い、ご親族等で、少しでも秋葉区でというお考えをお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ、こちらのツアーにお誘いいただきたいと思ひます。

(金子会長)

二つのイベントそれぞれ告知へのご協力を、ぜひ、お願いします。何かご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

皆さん、SNSはやっていらっしゃるでしょうか。なじみのない方もと課長補佐がおっしゃいましたけれども、インスタグラム、フェイスブック、ツイッターという3大SNS、ラインも一応、若者を中心に使っていますが、この三つに関して言うと、私なども一つしかやっていないので、完全にSNSを活用できていないほうに入るのですけれども。

やはり、今、SNS上の情報戦略が本当に欠かせないものになっていて、行政でも優先課題になっているようです。特にご質問、ご意見等ないようでしたら、次に移らせていただきます。

オ 『あ!キハ』 Akiha 観光案内所 開設1ヶ月の運営報告

次第には入っていないのですが、皆さまもご関心があるのではないのでしょうか、Akiha 観光案内所「あ!キハ」の開設1か月がたちましたということで、産業振興課の長崎課長からご報告いただきたいと思えます。

(産業振興課)

産業振興課の長崎です。よろしくをお願いします。

A3表裏の資料になります。Akiha 観光案内所の本オープン、7月27日、SLばんえつ物語号の出発式の日が本オープンになっていますけれども、その翌日から30日間での集計結果をお持ちしました。まず、1枚目、曜日ごとということで、上のほうにありますけれども、週間ごとの集計結果を出ささせていただいております。夏休み期間中ということで、比較的平日も多く来られていますけれども、見ていただいたとおり、土曜日と日曜日、そしてお盆期間中の8月11日から17日にお客様の集客の束があるということです。その辺のコメントについては、下の四角囲みにありますとおり、30日間で計1,586名の方が来られて、1日平均64人、日曜日、土曜日が多いということで集計させていただいております。

二つ目、開所して時間ごとのお客様の入り状況ということで、8月1日から今週の月曜日までの時間ごとの集計も出ささせていただいております。特徴的なのは、やはり土曜日、日曜日が多いわけですが、来られるお客様の時間帯としては、やはりお昼前後が多かったと感じております。また、下の平日ですが、午後に集中しているという状況が見取れます。

では、どういったお客様がどの時間帯にというのは後ろのほうで紹介させていただいています。まず、どの地域から来られているかということで行きますと、地域的には県外の方が多

くて、不明の方というのはふらっと入ってきてチラシを持って帰っていったり、中を若干見て回ったりという方々が多かったと認識しております。県外の方々については、概ねお尋ねされるので、その際に来られた場所を聞かせていただいております。それを集計しますと、赤字の地域が特に多くて、下にもありますけれども、県外でも、右に書いてあります路線の乗り換え、青春 18 切符、鉄道資料館に行く方々がほぼ寄られているということです。恐らく、乗り換えや出かける際にJRの開札のところで職員の方に、案内所はどこですか、あるいは、買い物をしたいのだけれどもコンビニエンスストアはどこですかと降りられた方が来ている傾向があります。そして、会津若松、横浜、東京、神奈川、山形、京都、埼玉というところが高いのですけれども、新潟駅に行かずに新津駅で降りる方は羽越線に乗り換えて北を目指すか南を目指すか、あるいは磐越西線で会津、さらには東北本線を目指す方の傾向が多かったと記憶しております。

最後に、訪れた理由ですが、今も申し上げましたとおり、観光案内所を知っているので来たということで来られたり、見学という方もやはりおられて、会場にNゲージによる情景ですとか、あるいは運転シミュレーターというゲーム感覚で運転士・車掌の体験ができるものがあるのですけれども、それが好きでリピーターの子どもとか学校帰りの子どもなどがいらっしやいます。(2)ですけれども、鉄道資料館のガイドが常駐しており、レンタサイクルを借りる方、そしてバスの時間を調べられる方がいらっしやるということです。特に夏休み期間中はシャトルバスが無料で走っておりまして、お寄りする方が多かったということです。最後に、(3)問い合わせということで、数は若干少なくなっていますが、食べるころはどこですか、まちなかでどこか行くところはありますか、駅弁はどこで買えますかと。さらに、下のほうにありますけれども、三色だんごをどこで買えますかとか、具体的な駄菓子屋へ行きたいという方もいらっしやいますし、下越病院、新津医療センター病院のバスはどこにとまっていますかというご年配の方もいらっしやいます。ということで、傾向からしますと、もう少し地元の方がいるかなと思ったら、地元以外の方がけっこう寄られているということがあります。

案内所としてオープンさせていただいて、販売のサービスがまだできておりませんが、お土産等を売ることができればさらに可能性が広がるのではと、来週、一緒に設立・運営しております新津観光協会、商店街、鉄道資料館、そしてJR新津駅と、この資料に基づいて、今後、デスティネーションキャンペーン期間の12月末までの開設期間を考えておりますので、今後の展開を検討することと同時に、来年以降、どのように運営していくのか、運営するためにはどうしたらいいのかという課題の抽出をはじめ検討するというので、1か月分の資料がまとまりましたので、本日、ご報告させていただきました。

(金子会長)

ただいまの件について、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

(小林委員)

「あ！キハ」というのは、鉄道の案内だけではなくて、観光案内も含めてやっていただけるのでしょうか。

(産業振興課)

観光案内もしております。そのために、区が主導して観光協会と鉄道資料館の案内所、停車場をドッキングする形で展開しておりますので、両方ともやらせていただいております。

(小林委員)

そうすると、これはこれからなのですが、小須戸コミュニティ協議会が提案したひなと町屋の何かをそこに飾っていただけるととてもうれしいなと思っています。後でご相談に上がりたいと思いますので、よろしくお願いします。

(金子会長)

ほかにありませんか。

私から1点お伺いしたいのですが、これは開設後、それなりの手ごたえを感じているのではないかと思うのですが、目標みたいなものは設定されていたでしょうか。それに対する実績は、何か比べているものがありますか。

(産業振興課)

具体的な数字の設定はしておりませんでした。それよりも、どういう方々がどこから来ているかという傾向をまず把握したいということが1点、それと、実際に来られた方々がどういうニーズをお持ちで、どういうサービスを求められているのかをまず把握したいということがありますので、数字的なものは、今回、夏の傾向が出てきましたので、今後、長期休暇期間中ではない時期のお客様の動きを把握していきたいと考えています。

(金子会長)

感じましたのは、実は、先日、私も行ってそこで少し立ち話もしたのですが、やはり設置、開設するのはそれなりに費用がかかることなので、それをどのような効果が秋葉区に、この地域に及んでいるかをしっかり明らかにすることが重要ではないかと思ひ、そういう意味では、運営の戦略をしっかりと立てていく、目標値も設定するといったところが基本的なこととしてお願いしたいと思ひます。

あと、もう一つあるのですが、観光戦略会議がありますよね。私はそこに先日出席させていただきました、自治協議会の会長として出席させていただきました、そこで一つ、観光というのは交流の入り口であるということだと思ひますので、そこからさらに秋

葉区に奥深く入っていく、もう少し地元の人たちが体験するようなことを一緒に体験できる
とか、やがては移住や定住に結びつけていくという、段階的な誘導が非常に重要だと思っ
ています。そういう意味で、アキハスムのデスクを「あ！キハ」に一つ設置してみたらどうで
しょうということを意見として言わせていただいたのですけれども、それは可能性としては
いかがでしょうか。全く難しいのでしょうか。

(産業振興課)

まず、アキハスムについてはチラシを複数置かせていただいて周知させていただいている
ことが一つ。それと、交流の入り口ということと言えますと、今、10月のデスティネーシ
ョンキャンペーンに向けて案内所を出発点としたツアーを造成しているところです。先行す
る形で、明日、ここにもおられます本田委員がガイドとして常駐いただいておりますので、明
日からテスト的にやらせていただきますけれども、案内所を使ってさまざまなことがそこで
始まる、そこで情報と人と交流が生まれるような形を、今、作っているところです。

アキハスムは問い合わせとしてのご相談等はまだまだありません。ただ、ゆくゆくはそこにつ
ながるようにしていきたいと思えます。まだガイドでそこまでの話ができる方がいらっしや
らないのですが、区の職員、私ども産業振興課の職員が常駐しておりますので、ご説明のと
きにはチラシを配布して、今、ご紹介させていただいておりますが、そういうサービスがで
きるようにしていきたいと考えております。

(金子会長)

デスクの設置にこだわっているわけではないのですけれども、とにかく遊びに来て楽し
いし、住んでも楽しいという両面を、表玄関に見えるようにするというのを何かしらの形
で実現していただけるとありがたいと思っております。

(阿部副会長)

私などは、旅に出たら、休むところとおいしいところを聞きたいと思うのです。ちなみに、
ここにも昼食を取る場所とか書いてありますが、固有名詞は無理として、いくつか案内する
場所はあるのでしょうか。あるいは、パンフレットなどはあるのでしょうか。

(産業振興課)

お昼前に来られる方のほとんどが食べる場所のリクエストがありますので、チラシもい
くつかご用意させていただいております。やはり、ラーメン類が食べたい、ご飯類が食べたい、
地元の土産などはありますか。どのくらいの時間がありますかと聞かせていただいて、そ
の範囲で近いところを紹介させていただいております。そうでない場合は、レンタサイクル
をお貸ししてまちなかまで行っていただいている状況になります。

(金子会長)

ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。なければ、次に移りたいと思います。

カ こども食堂秋葉かけはしについて

(金子会長)

こども食堂秋葉かけはしについて、島倉委員よりご説明をお願いします。

(島倉委員)

秋葉区にこども食堂ができて、9月で丸2年となります。高齢の方からも若いパパママなどで本当に賑わって、楽しく食事をしています。

7月は、定例のこども食堂とは別に、夏休みの宿題、工作をやって、自由研究を終わらせてしまおうという企画をしました。秋葉区にあるナツメロ会の皆さまに工作をしていただいたり、牛乳パックの小物入れを作ったり、あと、紙芝居サークル青空から、昔懐かしい拍子木でかちかちとやって紙芝居を読んでもらったりして、大変楽しく過ごすことができました。

今後も、定例のこども食堂以外に、長期のお休みなどにまた開催できたらいいなと思っております。そして、秋葉区にあるいろいろなサークルの方と交流の場を持って、大変いい経験になりました。皆さん、ぜひ、毎月第2金曜日、山谷町にある福音キリスト教会で午後5時半から7時半まで夕食を提供していますので、ぜひ、覗きにきてください。

(金子会長)

私も必ず行きますと言っておきながら、まだ一度も。

(島倉委員)

ぜひ、お待ちしております。

(金子会長)

第2金曜日、ぜひ伺いたいと思います。

何かご意見、ご質問等はありませんか。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。では、以上、用意したものはこれですべてなのですけれども、この機会に共有したいことがほかにありましたら、ぜひ、挙手をお願いしたいと思います。

(伊藤(治)委員)

説明の中で秋葉区の移住体験ツアーというものがあったのですが、私はこれを一つ、金子会長が移住していますし、東村さんも移住してきます。実際に移住してきた人の体験を聞いたほうが、非常に役に立つのではないかと思います。一旦新津を離れてまた帰ってきた人間もいますけれども、ずっとここにばかりいるよりは、1回出て帰ってきた人間、または金子

会長や東村さんのようによそから入ってきて移住してここに住んだ方の意見は非常に参考になると思うのですが、いかがでしょうか。

秋葉区に来てこういうところがよかったとか悪かったとか、そういうことが一番実感として分かると思うのです。

(地域総務課)

地域総務課の井上です。

この移住体験ツアーは、アキハスムプロジェクトという事業の中で今年が3年目になります。

チラシの裏面を見ていただくと、プランを三つ用意しまして、それぞれ、1日目の夕方から交流会を開催する予定としておりまして、三つとも正式な申し込みはまだない状況なのですけれども、申し込みがあつて開催する際には交流会を設けまして、それぞれの地区に、実際に県外等から移住してきている方との交流を予定しております。新潟市秋葉区の中で移住モデル地区と指定されている小須戸地区、朝日地区、金津地区、それぞれの地域に移住されている方との交流会という形でやっていく予定ですけれども、今の伊藤委員のアイデアも参考にさせてもらいながら、取り入れられるものは取り入れていきたいと考えております。

(金子会長)

ご質問いただきましたので、私の所感なのですけれども、これはとても丁寧に組み立てられているツアーだと思います。それで、成果も出ているということで、この路線で今後やっていただければと思います。

このメニューを見ると、私も参加してみたいと思うくらいなのですけれども、すでに移住していますので、もうだめと言われそうですが、言われますね、確実に言われると思いますけれども、少し突っ込んで、もし何か私の移住経験が役に立つことがありましたら、ぜひ、東村さんを含めてヒアリング等を応援させていただきたいと思いますので、お願いします。

3 閉会

(阿部副会長)

命を守るためにエアコンをつけましょうという夏がやっと少し遠のいたかなという感じがします。皆さま、この夏はいかがでしたでしょうか。そう言いながら、逆に、今、九州は大変なことになっていますので、早く収束が見られるといいと思います。

さて、あきはくはつものがたりがお手元に届いたということですがけれども、反応はいかがでしょう。頷いていらっしゃる。私などは写真写りがいいねと。それは褒め言葉ではないのですけれども、とりあえず真ん中にどんといたものですから、10人くらいから写真の写

りがいいねと言われてしまいました。しかし、何であれ自治協議会が少しでも広まってくれたらいいなと思っております。皆さまも、ぜひ、いろいろな声を情報共有していきたいと思っておりますので、よろしくご協力ください。

本会議、お疲れさまでした。終わります。